

September 6, 2019

【前日の為替概況】ドル円、続伸 強い経済指標で米景気の先行きに対する懸念が後退

5日のニューヨーク外国為替市場でドル円は続伸。終値は106.94円と前営業日NY終値(106.39円)と比べて55銭程度のドル高水準だった。

米中両国が閣僚級の貿易協議を10月初めにワシントンで開催することで合意したと伝わると、米中貿易摩擦が和らぐとの期待が広がり、世界的に株価が上昇。投資家のリスク志向が改善し円売り・ドル買いが優勢となった。

また、8月ADP全米雇用報告では非農業部門雇用者数が前月比19万5000人増と予想の14万9000人程度増を上回ったほか、8月米ISM非製造業指数は56.4と予想の54.0より強い内容となった。米景気の先行きに対する懸念が後退すると、米10年債利回りが1.5891%前後まで上昇し全般ドル買いを促した。ドル円は23時30分前に一時107.23円と8月2日以来約1カ月ぶりの高値を付けた。

ただ、107円台では戻りを売りたい向きも多く滞空時間は短かった。2時過ぎには一時106.88円付近まで下押ししている。

ユーロドルは横ばい。終値は1.1035ドルと前営業日NY終値(1.1035ドル)とほぼ同水準だった。ユーロ円の上昇につれたユーロ買い・ドル売りが先行し23時前に一時1.1085ドルと日通し高値を付けたものの、良好な米経済指標が相次ぎ、米長期金利が大幅に上昇すると一転ドル買いが優勢となった。

来週12日の欧州中央銀行(ECB)理事会での利下げをはじめとした緩和策への期待も根強く、一時1.1032ドル付近まで押し戻された。市場では「一目均衡表基準線が位置する1.1088ドルや21日移動平均線1.1093ドル付近が目先上値の目処として意識される」との指摘もあった。

ユーロ円は続伸。終値は118.01円と前営業日NY終値(117.40円)と比べて61銭程度のユーロ高水準。ダウ平均が一時480ドル超上昇し、ナイト・セッションの日経平均先物が190円上げると、全般リスクオンの動きが広がり円売り・ユーロ買いが優勢に。23時30分前に一時118.61円と8月15日以来の高値を付けた。ただ、そのあとはユーロドルの下落につれた売りが出たため118.00円まで伸び悩んだ。

【本日の東京為替見通し】リスクオン継続も梯子が外れる可能性に警戒、英政局動向は依然注目

本日の東京市場のドル円は、引き続きリスクオンで底堅い展開か。英・伊・香港のリスクが減退したことに続き、米中通商摩擦解消への期待でドル円は堅調地合いを維持している。

昨日は東京時間には動意薄となると市場参加者が思っていた時の、米中貿易協議再開発表だったこともあり、買い遅れている市場参加者も多いため106円半ばからは新たな買い意欲も出てきそうだ。

しかしながら、リスクオンの梯子が週末にかけて外される可能性もあることは常に頭に入れておきたい。米中貿易協議再開にもかかわらず「中国は世界貿易機関(WTO)提訴を取り下げる計画はない」と中国商務省報道官は発言している。

トランプ米大統領がこの件に関しても強い態度で臨むことも予測されるため、1カ月以上先の会談が決定しただけで、両国の関係が改善されると楽観視するのは危険だろう。

また、香港問題も中国がこのままデモ参加者を放置するとも思えない。10月1日に建国70周年を迎えるなか、中国共産党は10月に党の重要会議である第19期中央委員会第4回総会を開くことを決定している。習近平・中国国家主席も強気な姿勢を崩すことも出来ないため、まだまだ予断を許せないだろう。

NY時間には、8月の米雇用統計が発表され、パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長の講演も予定されていることもあり、大きく動く可能性がある。

ドル円以外では引き続きポンドの動きには要警戒になる。ジョンソン英首相は、いまだに10月15日の総選挙を望み、演説で「10月末のEU離脱期限を延期するよりは野垂れ死にすることを選ぶ」と発言している。解散カードとしてはジョンソン英首相の意を組んで、政権与党の保守党が内閣不信任案を提出する可能性すら否定できないだろう。

法案成立と違い、過半数で可決でき、その場合は野党がどのような対応をとるかなども注目される。議会の閉会が来週予想されることで、今週末に様々な憶測が出る可能性もありポンドの動きは目が離せない。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:30 ◇ 7月家計調査（消費支出、予想：前年比1.1%）
- 08:30 ◇ 7月毎月勤労統計（現金給与総額、予想：前年比0.1%）
- 08:50 ◇ 8月外貨準備高
- 14:00 ◇ 7月景気動向指数速報値（予想：先行93.2／一致100.7）

<海外>

- 15:00 ◎ 7月独鈷工業生産（予想：前月比0.3%／前年同月比▲3.9%）
- 15:45 ◇ 7月仏貿易収支（予想：44.54億ユーロの赤字）
- 15:45 ◇ 7月仏経常収支
- 18:00 ☆ 4-6月期ユーロ圏域内総生産（GDP）確定値（予想：前期比0.2%／前年比1.1%）
- 19:30 ◎ ロシア中銀、政策金利発表（予想：7.00%に引き下げ）
- 21:00 ◎ 8月ブラジルIBGE消費者物価指数（IPCA、予想：前月比0.11%）
- 21:30 ☆ 8月カナダ雇用統計（予想：新規雇用者数変化1.50万人／失業率5.7%）
- 21:30 ☆ 8月米雇用統計（予想：非農業部門雇用者数変化15.8万人／失業率3.7%／平均時給、前月比0.3%／前年比3.1%）
- 23:00 ◇ 8月カナダIvey購買部協会景気指数（予想：53.0）
- 7日 01:30 ☆ パウエル米連邦準備理事会（FRB）議長、講演

9日

<国内>

- 08:50 ◎ 7月国際収支速報
- 08:50 ☆ 4-6月期実質国内総生産（GDP）改定値

<海外>

- 07:45 ◇ 4-6月期ニュージーランド（NZ）製造業売上高

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

5日 16:23 中国商務省報道官

「米中会合は実質的進展を目指す」

「米国は中国企業への圧力を停止すべき」

「中国は世界貿易機関(WTO)提訴を取り下げる計画はない」

5日 20:20 ゴーヴ英環境相

「政府は、離脱延期法案が上院で可決された場合従わざるを得ない」

6日 00:24 英首相報道官

「現政権がメイ前首相の離脱合意案に戻ることはない」

6日 01:39 ジョンソン英首相

「解散総選挙を望んでいるわけではないが、それ以外の方法がない」

「もし10月31日以後もEUに留まるべきだと考えるのなら、それは英国民が決めること」

「英国を一致団結させるにはEU離脱が必要」

「政府は10月15日の総選挙を望む」

6日 02:40 ジョーダン・スイス国立銀行(スイス中銀、SNB)総裁

「マイナス金利がどの程度続くかは言うことが出来ない」

「マイナス金利は今のところ必要」

6日 02:49 シェンブリBOC(カナダ銀行)副総裁

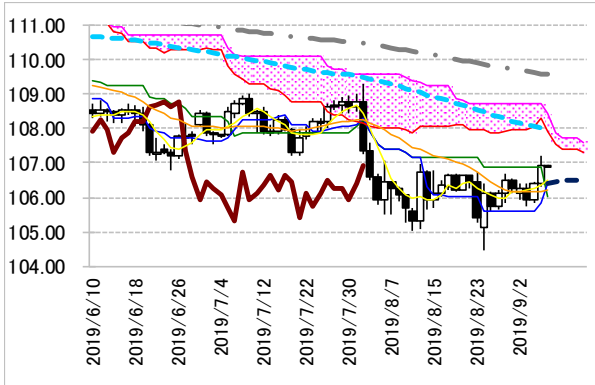
「カナダのインフレ率は2%付近でしっかり」

「通商摩擦の世界経済への影響を強く懸念している」

「第2四半期、賃金が上昇したにもかかわらず鈍い消費には困惑」

※時間は日本時間

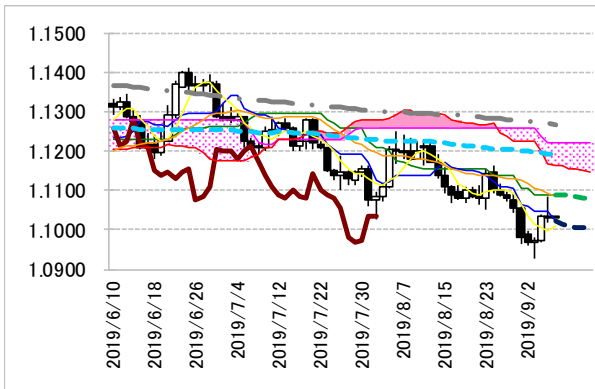
〔日足一目均衡表分析〕



<ドル円＝転換線・基準線レンジ上回る展開>

上影陽線引け。底打ちした 21 日移動平均線付近の底堅さが明確となり上伸した。昨日から本日にかけて一目均衡表・転換線と基準線が交差するタイミングで、両線に挟まれたレンジを上回る展開となっている。基準線の低下にあわせ、いったん調整の下押しが入る可能性も視野に入れておきたい。しかし、基調の強まりを反映して上昇傾向を持続しそうな転換線が支えとなろう。

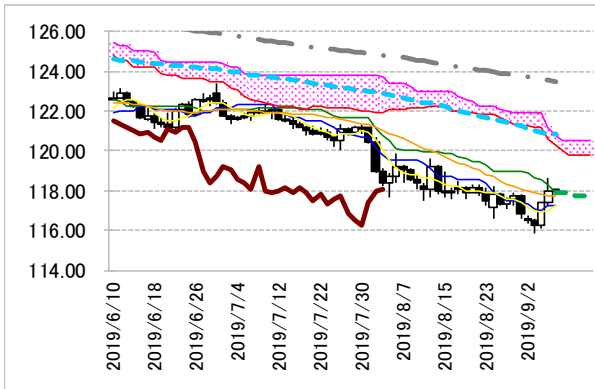
レジスタンス 2	107.92(日足一目均衡表・雲の下限)
レジスタンス 1	107.57(8/2 高値)
前日終値	106.94
サポート 1	106.41(日足一目均衡表・転換線)



<ユーロドル＝複数の抵抗が控え、戻りの足取り重くなりそう>

上影同事線引け。8 月 29 日以来の水準 1.1085 ドルまで上昇したが押し戻され、1.1035 ドルで気迷いを示す寄り引け同事線を形成。高値が一目均衡表・基準線の目前、実体部は一目・転換線以下に抑えられた。両線とも低下中で、本日は 1.1021 ドルへ水準を下げた転換線を上回ってのスタートだが、ここからは戻りの足取りが重くなりそう。1.1084 ドル前後で低下中の 21 日移動平均線も抵抗となる。

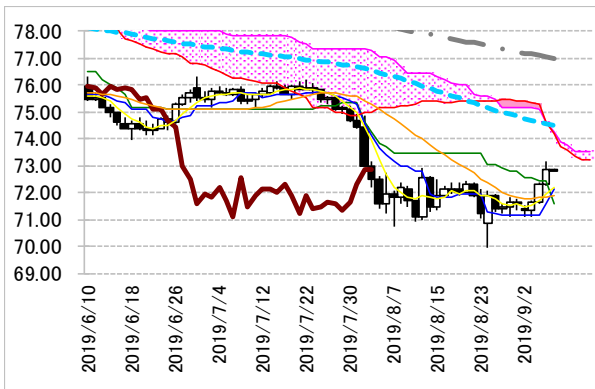
レジスタンス 1	1.1088(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	1.1035
サポート 1	1.0987(9/3-5 上昇幅の 61.8%押し)



<ユーロ円＝基準線を上回るも、118 円付近の動き不安定か>

上影陽線引け。一時 118.61 円と 8 月 15 日以来、3 週ぶりの高値をつけた。一目均衡表・基準線を上回ったところでは伸び悩んだ。本日、基準線は 117.88 円へ水準を下げており、前日終値を維持できれば、基準線の抵抗を上回る格好となる。ただ、下値の 21 日移動平均線も 117.75 円前後で低下中。押し目で支えとなりそうなのは、底打ちした一目・転換線と考えられる。118 円前後での動きは不安定になりそうだ。

レジスタンス 1	118.61(9/5 高値)
前日終値	118.01
サポート 1	117.24(日足一目均衡表・転換線)



<豪ドル円＝雲までの上値余地を埋めにくい展開期待>

上影陽線引け。一目均衡表・転換線と基準線が交差する 71 円台で、21 日移動平均線が底打ちから上昇へ転じた。同線付近の底堅さを背景に相場は基調を強め、基準線の抵抗を克服。8 月 2 日以来の高値 73.15 円まで上伸した。上抜けた基準線は低下を続けており、サポートへ転じたとの確信は持ちにくい。だが、代わって 72.12 円へ上昇した転換線や 71.88 円前後で推移する 21 日移動平均線が下押し局面のサポートになる。一目・雲までの上値余地を埋めにくい展開が期待できる。

レジスタンス 1	73.65(ピボット・レジスタンス 2)
前日終値	72.87
サポート 1	72.12(日足一目均衡表・転換線)

